あとがき

事務局を引継いだのがついこの間のように思われ、時の過ぎ去ることの早さに今さらながら驚いている昨今です。しかし、この一年間を振り返ってみると、よくもまあ身の程知らずに事務局を引受けたものだと反省させられることばかりです。会員の方々の中にも事務局の渋滞を危惧されたことと深くお詫びします。しかし、前事務局を担当された山本会員をはじめ会員各位のご援助をいただき、かろうじて持ちこたえることのできましたことを感謝します。

この一年の間でもっとも苦しかったことは、会費長期滞納者を整理するというめぐりあわせに出遭ったことでした。組織維持のためとはいえ、かって村研でご活躍された方々のお名前を消去せざるをえなかったことは沈痛な思いでした。失礼に及んだことをお詫びするとともに、今後とも村研活動にご支援下さいますようお願いいたします。

他方、この一年間に入会されました新鋭の研究者が二〇名にも達したことは、大きな救いでした。新入会員の方々は、村研に大きな期待を寄せている趣意の文面を事務局によせています。村研は、こうした新入会員の期待に応えていくべき研鑽の場としてより一層の充実を計るべき自覚を促されると共に、新会員の清新かつ自由闊達な気風によって研究活動を旺んにし、会員相互の連帯をより一層強靱なものにしてゆくことを期待したいと思います。

もう一つ特筆すべきことは、大会報告を希望される方が多く、例年のように報告依頼するという手続きの殆んど不要だったということです。「農村自治」という時宜をえたテーマ設定も影響してのことと思われますが、村落社会研究に対する〝熱気〟を感じさせられました。宿題委員を中心とする地区研究会活動が、そうした状況を醸し出す一翼を担っていたように思われます。

二六回目を迎えた本年度の大会は、村研にとって名実共に新たな発展のスタートとなる劃期的な意義をもつものとして、充実した大会になりますことを祈念し、事務局の任を終わらせていただきます。

（柿崎京一）